

静岡県精神保健福祉センター

〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20 静岡総合庁舎 別館4階

TEL: 054-286-9245 FAX: 054-286-9249

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-845/tayori-syohou.html>

<目次>

- ◆ P 1 <巻頭挨拶>
- ◆ P 2～3 <報告> 熊本地震災害派遣活動報告
「若者こころの電話相談窓口」開設から1年が経過しました！
- ◆ P 4 <お知らせ> 平成28年度研修計画

<巻頭挨拶>

静岡県精神保健福祉センター所長 内田 勝久

～ご挨拶～

精神保健福祉だよりをお届けいたします。

また、熊本の地震で災害にあわれた方々につきましては、ここからお見舞いを申し上げます。そして、いまだに続いている地震発生が速やかに収束し、地域の復旧がなされることもあわせて祈念いたします。



この熊本の震災に対し、静岡県は医療援助チームや保健師チーム等を派遣いたしました。現地において健康問題等で困っている方たちに多少なりともお役に立てたのではないかと思います。

ところで前号の精神保健福祉だよりには、「DPAT(ディーパット:災害派遣精神医療チーム)」というコラムを書きました。そこでは、「静岡県のDPATですが、現在、いろいろな精神保健医療に携わる方たちと共同してDPATの組織や体制作りに取り組んでいます。」と、静岡県版DPATの設立についての報告をいたしました。そして、この静岡県DPATもこの5月に熊本で活動をいたしました。まさかこんなに早く静岡県もDPAT活動をするようになるとは思ってもいませんでしたが、県立こころの医療センターはじめ、浜松医科大学、静岡市、浜松市の協力を得ての活動開始となりました。私自身は、5月17日から20日まで、DPAT活動に参加しました。実際に参加してみて、いろいろと勉強になることが多々ありました。今後静岡県が被災した場合、どのような準備をしておくべきか、机上ではなく実際に災害援助のごくごく一部ですが体験したことにより、より実践的な計画を立てるために役立つような経験になったと思います。

今回の便りでは、静岡県のDPATの活動報告なども掲載されていますので、参考にいただければ幸いです。



～熊本地震災害派遣活動報告～

私たちは、DPATとして熊本県宇土市に行ってきました。チーム編成は医師1名、心理士2名、調整員1名の4名です。

活動内容は、市内にある避難所6箇所を巡回し避難されている方のお話を聞くことが主なものでした。毎日宇土地区医師会においてミーティングを行い、その場で宇土市の保健師・地域包括支援センター・リハビリチームの他、支援に入っている他県の保健師チーム等と情報共有を行い、巡回中はミーティングで話題になった特に気になる方に意識的に声を掛けるようにしました。時には保健師からの依頼で医師による診察を行うこともありました。



<↑宇土市庁舎↑>

写真では良く分かりませんが上の階が崩れており、市役所機能は別の場所に移っていました。



<↑ある避難所↑>

避難所ごとに雰囲気は違い、仕切りがない所もありました。



「避難所にいる人や市の人は、地震と一緒に体験しているから『怖かったね』と話をすることがあっても、それぞれ大変さがあったそれ以上話が出来ないけれど、他所から来た人に『こんなに地震は怖かったんだよ』と伝えられると、気持ちが楽になる」と話して下さった方がいて、その言葉がとても印象に残っています。また、最終日にご挨拶をした時には、避難所の出口までわざわざ見送って下さった方もいて、私たちが派遣に行ったことで少しでも力になれたのかな、と感じました。

今回の地震は夜に大きなものが2回来ていたこともあり、避難所の利用は夜の方が圧倒的に多かったことが特徴的でした。そのため、私たちが支援に入る時間帯とズレが生じており、その点は課題でありました。限られた枠組みの中でどんなことが出来るのか、行ってみなければ分からないことも多く、良い体験をさせて頂いたと思います。



「若者こころの悩み相談窓口 ～生きるのがつらくなったあなたへ～」 開設から1年が経過しました！

平成 26 年に静岡県で亡くなった方の死因を年齢別にみると、20 代、30 代では「自殺」が 1 番多く、10 代も「自殺」「不慮の事故」が同数で 1 番多くなっています。今、自らの死は、『個人の自由な意思や選択の結果ではなく、その多くが追い込まれた末の死』で、『誰にでも起こりえる危機』であると言われています。

県では、平成 27 年 5 月 11 日から「若者こころの悩み相談窓口～生きるのがつらくなったあなたへ～」を開設し、若者やご家族からの電話相談に応じています。



「若者こころの悩み相談窓口」とは

「生きるのがつらい」「誰にも気持ちを言えない」など、こころの悩みを抱えた若者（概ね 40 歳未満）の気持ちを聴き、問題解決につながる方策を一緒に探す等、その方が少しでも生きやすくなるよう、寄り添っていきます。

平成 27 年度は **302** 件の相談電話がありました。

ぜひ、困ったときにはご利用いただき、また、身近で悩んでいる若者がいたら、この窓口を伝えていただければと思います。



現状について

最近インターネット等を見て番号を知り、電話をかけてくださる方が多く、継続相談となっている方も複数名いらっしゃいます。継続して相談できることがこの電話の特徴となっており、相談者に確認の上、相談員で情報を共有しています。

利用方法



対象：生きるのがつらくなった等、こころの悩みを抱える若者

電話相談時間：月～金 午前 9 時～午後 4 時（年末年始を除く）

電話番号： **054-285-7522**





研修名		対 象	目 的	実施時期及び会場
ひきこもり	ひきこもり支援者研修 (基礎研修)	ひきこもり支援に携わる関係機関の職員	ひきこもり状態にある若者やその家族の相談に対応するための基本的な知識を習得する。	平成28年7月8日(金) (静岡総合庁舎)
	ひきこもり支援者研修 (実践研修)		情報交換や事例検討を行う中で関係機関が互いの役割や機能について理解を深め、円滑な連携が図れるようになる。	平成28年7月29日(金) (静岡総合庁舎)
	ひきこもり支援団体情報交換会		ひきこもり支援に携わる各団体が、支援内容や役割について互いに知り合い、繋ぎっていくことで、よりよい支援を提供する協力関係を構築する。	平成28年11月頃 (静岡総合庁舎)
自殺対策	県自殺対策情報交換会	行政職員他、必要と認められた者	自殺対策に関するトピックや参考になる取組み等について情報交換し、地域における自殺対策の推進に役立てる。	平成28年11～12月頃 (静岡総合庁舎)
	ゲートキーパー講師 フォローアップ研修	GK講師養成研修を受講し、GK養成研修の講師を務める者	GK研修受講者の理解を深める研修の進め方、内容の充実等、研修実施に係る技術及び研修内容の向上を図る。	平成29年1月頃 (静岡総合庁舎)
	自殺未遂者ケア研修	精神科医療機関の医師、看護師、精神保健福祉士、保健所職員等	精神科医療関係者に対して、改めて自殺未遂者ケアの基本及び対応の流れを学ぶ研修会を開催し、対象者が自殺未遂者ケアについてのスキルアップを図ることにより、自殺予防に資する。	平成28年12月頃 (静岡市内)
	若年層自殺対策研修会	若年層の自殺予防対策に関わる者	地域で若年者支援に取組めるよう、現代の若者の現状や若年層の心理的特性等について共有し支援のあり方を考える。	平成28年9～10月頃 (静岡市内)
こころの緊急支援活動研修		学校関係者、医療機関職員、行政職員等	学校等における危機発生時に児童生徒等のこころのケアを実践できるよう、学校現場や関係機関等の職員がこころの緊急支援活動に関する基礎的な知識を習得し、活動の実際について体験する。	第1回：平成28年6月21日(火) (総合教育センター) 第2回：平成28年10月20日(木) (東部総合庁舎)
災害時のメンタルヘルスケア研修会		精神科医療機関職員、行政職員等	災害時に心のケアに携わる者が災害時の心のケアの基礎知識及び対応を知ることにより自らの機関の体制を振り返り、業務に活かす。	平成28年11月頃 (静岡市内)

* H28年4月時点で計画している研修一覧です。
実施日が未確定の研修については、時期及び会場を変更する場合がありますので、御承知おきください。

